横浜市立 横浜市立横浜商業高等学校別科　　評価報告書　　（　令和　5　～　7　年度　）

様式1

取組分野		令和　5　年度		総括
		取組目標	自己評価	
重点取組項目	魅力ある高校教育の推進	○理美容業界をリードする人材の育成 ・「理容師免許・美容師免許」取得は目標の通過点であり、将来は国内外で理美容界のリーダーとして、活躍する為に豊富な授業時間数を活用し、基本的な技術及び知識を充分に身に付けさせる。 ○サロンでの実習体験、理美容界で活躍している卒業生の講話会を通して、自身の理容師像や美容師像が明確に持たせる。 ・福祉施設での貢献活動や地域との連携を教育活動に有効活用し、理美容業と社会生活に重要な態度と能力を身に付けさせる。 ○理容修得者課程（ダブルライセンス）の教育活動の充実 ・現行の教課目の現状分析を行い、発展的授業開発やその講師の確保、そしてそれらを具体的に広報する各種手段や充実を図る。	「理美容界をリードする人材の育成」に関する項目（No1）に関して、保護者アンケートでは95.2%、生徒では91.8%の肯定的回答を得ている。しかし教員では73.3%の肯定的回答に留まっている。豊富な講師陣による技術指導が着実に身に付き、その技術の実践練習として福祉施設利用者への実務実習を通した交流の体験とそれに伴って見えた生徒の成長、また訪ねてくる卒業生の活躍やその様子などからこの評価につながっていると推察される。 しかし教員の26.6%の否定的回答は今後の課題を示している。主に理容修得者課程（ダブルライセンスクラス）の取得資格を十分に生かすための進路先の開拓や生徒・職員の意識改革に力を入れて取り組む必要性がある。また、理美容の現場を生徒が十分に理解し、職業観を育成するために、各事業主様とのつながりを強化していくことも今後の課題である。	B
	多様化する生徒への支援	・養護教諭とSC及びYSSW（ユーススクールソーシャルワーカー）の連携を確立し、研修等の機会なども活用し、生徒の相談への対応に職員で組織的に行う体制づくりを行う。 ・中学校卒業後すぐに入学する生徒への手厚い支援体制を構築する。	担任・養護教諭の相談活動及びYSSW（ユーススクールソーシャルワーカー）の人権研修会の企画を実践した。担任・養護教諭、YSSWともに授業や生徒との交流を通して、日ごろから生徒の様子と学校としての課題を見つめ生徒の支援に努めた。これが、特別指導（校則違反等）の大幅な減少につながっている。（令和4年度　11件　⇒　令和5年度　1件）	B
人材育成の取組目標		・横浜市立唯一の理容師・美容師の養成校であるため、教職員の異動がほとんどないという環境である。伝統と課題の整理をさらに進め、活かされるべきと改善すべき具体策に意欲的に取り組む意識を育てる人材育成を進めていく。 ・教務主任、各科主任を中心とした計画的な指導者層の意識改革の育成を図り、若年層への適切な指導計画を進める。教育委員会の育成研修や理美容業界各団体・企業の研修の計画的な活用を行う。 ・長期的な事業計画に沿った採用計画への展望をもって進める。	この項目を達成するための前提として、長い伝統と変化の乏しい職員体制の環境で、過去の成功体験を重視するあまり、新しい考えや時代の流れや変化に対して思考停止状態に陥りやすい職場であることを念頭に様々な取組みの実施を試みた。職員は別科の歴史と伝統を大切にし、生徒を大切に育成している。授業や各業務にも真面目で熱心に取り組んでいる。しかし、校則や内規、授業管理体制などに旧態依然とした部分が見て取れる現状もある。令和5年度は若手のリーダーを登用し、ベテラン教員と意見交換しやすい環境を整えるとともに、改革に取り組んだ。教務部における授業管理、生徒指導部の校則の見直し、生徒会指導部のBB祭開催改革、ICT広報部のインスタグラム開設など、様々な成果があがっている。	B
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	・学校教育目標と本校の歴史について確認した内容の改善を進めてきた。その上に立って「これからの理美容師の育成」のための職業観・別科の教育観をさらに理解しやすく表現する。	この項目（生徒・保護者No8）に関して、保護者アンケートでは91.7%、生徒では90.2%の肯定的回答を得ている。しかし教員のNo14では86.7%の肯定的回答を得ているが、No13の項目では71.4%（判断できないを除く）に留まっている。職員同志による意見交換の活性化が今後の大きな課題であり、この改善を行いながら同時に、学校経営方針の共有化を進める必要がある。WEBページ等は今の方針を継続していくことが望まれる。	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	・基本的な連携である報告・連絡・相談の徹底についての職員研修を行うとともに、学校経営方針の確かな共有による運営がなされるような啓発活動と自主的な研修会の運営を行う。	この項目（生徒・保護者No9）に関して、保護者アンケートでは92.8%（わからないを除く）、徒では91.0%の肯定的回答を得ている。しかし教員ではNo15（職員会議の充実）では71.4%（判断できないを除く）、No16の項目（授業研修の活性化）では60.0%の肯定的回答に留まっている。教員同志による意見交換の活性化が今後の大きな課題であることは上記と同様であり、また授業研修に関しては各科でさらに充実していく必要があり、今後の課題である。	B
	教育課程	・理美容師養成に関する制度改正に対応した平成30年度からの教科課程と理容修得者課程について、教室（施設設備）教員配置・教育計画・時間割などの課題を改善していく。	・教育課程検討委員会を中心に、生徒に身に付けさせたい資質・能力を常に検討を重ね、教員全体での議論を通じて課題を共有し、次年度からは「実務実習」を2年次に増やす教育課程の改善を行うことができた。今後も年度末の振り返りを丁寧に行い、学校内外の状況を幅広く視野に入れながら社会に求められる資質・能力を教育課程において明確化できるよう努める。	B
	教科指導	・各種実技競技会等に向けた身近な目標設定やきめ細やかな指導により、学生のモチベーションを高く保ち、高い技術力の習得を目指すことと、多様化する生徒の実態に応じた教科・技術指導の研究を行っていく。	・今年度は、理容美容学生技術大会の全国大会において理容科生徒が全国4位に入賞を果たし一定の成果を挙げることができ、下級生にも明確な目標設定を示すことができた。一方で、教職員アンケートNo5にある教職員の研修の不足を解消し、本校の教科指導の要でもある理容美容実習において国家試験100%合格とともに「指導の個別化」「学習の個性化」に対応できるよう生徒の学習履歴を含めICT機器を活用した指導方法の研修にも積極的に取り組む。	B
	特別活動部活動	・生徒会活動に関しては、本校の特殊性を活かした生徒の主体的な活動を充実し、創造性やコミュニケーション能力向上を活かす活動を行う。また、部活動は、高い技術力の獲得を目標として校内外の活動を支援する。	生徒会 特別活動や部活動ではBB祭、市庁舎アトリウム、学生大会などの校内外の活動を支援できていると考える回答が60%を超えてはいるが、生徒の主体性や責任感の育成といった面では、まだまだ改善していく余地があるという考えもみられるので引き続き丁寧に指導を行っていく。	B
	生徒指導教育相談（特別支援）	・全生徒に対して、個人面談を実施し、個々の生徒への理解を図るとともに、多様化する生徒の実態に合わせた相談・指導方法の研修を行う。教職員間での情報共有をSCの活用で組織的に対応する。	保護者・教員共にそう思う・ややそう思うが8割割を超え、モデル実習等が再開され社会的マナーや公共心の向上に繋がっている。また、生徒に関しての理解はさらに細かい指導が必要とされ、職員全体の取り組みに面接や聞き取り調査などの改善が必要と思われる。	B
	キャリア教育進路指導	・就職指導計画について生徒及び保護者に十分共有し、誰もが適切な就職、進学の実現に向けて応援団体との連携等を図る。 ・具体的なイメージや将来設計がもてるように、実務実習や実践授業をはじめとした進路指導・キャリア教育の充実を進める。	実務実習や就職ガイダンスを実施し、理美容業界の理解を深めることができるように取り組み、生徒は理美容業界のリアルを肌で感じることができた。さらに外部の就職説明会等への参加の経験も踏まえて生徒との個人面談を重ね、就職活動につなげ進路指導に努めた。	B
	保健指導環境美化	・本校の特色である職業意識の上に立った環境整備、美化・衛生意識を、授業は勿論学校生活のあらゆる部分で生徒同士での啓発や意識の喚起が行えるように取り組む。	学校のごみの分別方法を理解し、実践できていると感じる生徒が多かった。また、教科担当職員のきめ細やかな指導により、授業内での衛生・美化意識は非常に高く、良好な環境で学習に集中できていると感じる。学校生活においては、美化委員を中心に日常的・定期的な美化活動を行うよう指導をしており、職業人としての意識を育むことができるように努めた。	B
	学校経理施設・設備情報の管理	・予算や旅費予算等、配当予算内の執行について、年度当初に全職員の理解の下で計画し、有用な構内整備にあたる。 ・準公金を扱う額が大きいので、透明性のある経理を行う。 ・個人情報管理等の知識理解について研修会を積極的に行う。	この項目（生徒・保護者No10）に関して、保護者アンケートでは95.0%（わからないを除く）、徒では90.2%の肯定的回答を得ている。教員ではNo17・18ともに90%以上の肯定的回答となっている。施設・設備・情報の管理について今後も継続して業務にあたることが大切である。また経理に関しても情報公開も含め更に透明性を高め、周囲の信頼にこたえるように努めていく。	B
	保護者・地域等との連携協力	・地域清掃等を通じた地域連携をさらに積極的に行う。 ・学校評価の活用で、保護者、地域の方々との連携協力がより円滑になるように進める。また、今後の進め方を綿密に検討する。	この項目（生徒・保護者No11）に関して、保護者アンケートでは97.3%（わからないを除く）、徒では91.0%の肯定的回答を得ている。今後もこの数値を維持できるように努めていく。教職員ではNo19では93.3%の肯定的回答を得ているが、No20の項目（防災意識）では66.7%に留まっている。防災に関する保護者や地域との連携に関する取組の充実が必要であり、今後の課題である。	B
	危機管理	・災害、緊急事態発生時の対応・連絡体制について校内マニュアルの確認を全職員で行う機会を一層増やす。災害時の避難やメール配信など緊急連絡体制と対応について常に見直し、確認していく。	この項目（生徒・保護者No12）に関して、保護者アンケートでは88.7%（わからないを除く）、徒では85.2%の肯定的回答を得ている。毎年の取り組みを充実させるとともに全国で起こる災害や犯罪に対しての注意喚起を継続していく。教職員ではNo21（防災）では80.0%、No20（防犯）では87.0%の肯定的回答を得ている。特に防災に関しての改善を進めることが今後の課題として浮かび上がっている。	C
	学校に関する情報公開	・リニューアルした学校HP、市民への公開授業、広報会社との連携等さまざまな手段により本校の教育活動について、周知し理解を広める。 ・理美容業界、PTA、後援会、同窓会との情報共有に努める。	インスタグラムの開設、放課後オープンキャンパスの実施、デジタルパンフレットの作成など新しく様々な取り組みを行い、生徒募集の成果につながった。三団体との情報共有が不十分だったので次年度の課題としたい。	A
	いじめへの対応	・「いじめの定義」の正しい理解、横浜商業高校別科いじめ防止基本方針に則り、安心安全な学校を推進する。そのための保護者との連携、課題	いじめアンケートからもわかるように概ね対応に関しては8割以上の保護者・教員が取り組めていると考えられる。 改善点としては一方でそう思わないという意見も考慮し、基本方針を職員がさらに理解を深め小さな事象も取りこぼしのないよう丁寧に対応していく必要がある。	B

学校関係者評価書提言	「理美容業界をリードする人材の育成」について、生徒一人一人にその自覚が不足しているように思う。ダブルライセンス取得者がその資格を十分に生かす進路となっていないと思われるのでその改善を望む。学校運営において、若手リーダーを積極的に登用し定着させていくことで組織の活性化が進むことを期待する。理美容の大会参加を目標として生徒が努力し、その成果の評価を受ける機会を今後とも継承してほしい。生徒が望む新しい技術の教授も必要だが、まずはしっかりとした基礎技術を習得できる現状を維持してほしい。生徒の自主性、主体性、責任感の育成に対して、BB祭以外にも取組めるものを作ることを望む。いじめへの対応は、個々の事象対応に加え、何が良くて何が悪いのか理解できる人の育成を望む。地域の代表からは、登下校において、広がって歩くことや大声で話しながら歩くなどマナーを見直してほしいとの提言をいただいた。
学校関係者評価書提言に対する考え	教職員による自己評価を基に作成した資料から、学校関係者の皆様に様々な意見をいただけたことに感謝いたします。自分たち内部の視点からは気付けなかったことも多くあり、今後の学校経営にとても参考になりました。特に学校が掲げている教育目標の「理美容業界をリードする人材育成」について、生徒一人ひとりが、そのことをどのように自分事ととらえることができるようになるかが大きな課題であると認識できました。また、コロナウイルス感染症が落ち着いたことから、地域との交流の再開も模索し、地域との相互理解を深められるように努めることも必要である。これからこのことを職員と共有してチーム別科で取り組んでいく。
中期目標振り返り	目の前にある目標に対して具体的な取り組みを実施できており、入学希望者の増加など大きな成果をおさめている。しかし学校として掲げているスクールミッションやスクールポリシーを職員・生徒ともに自分事としてとらえきれていない現状である。目の前にある目標や課題を一つづつ達成しながら、中期目標の達成も常に意識しながら学校経営に取り組むように努めていく。

取組分野		令和　6　年度		総括
		取組目標	自己評価	
重点取組項目	魅力ある高校教育の推進	○理美容業界をリードする人材の育成 ・「理容師免許・美容師免許」取得は目標の通過点であり、将来は国内外で理美容界のリーダーとして、活躍する為に豊富な授業時間数を活用し、基本的な技術及び知識を充分に身に付けさせる。 ○サロンでの実習体験、理美容界で活躍している卒業生の講話会を通して、自身の理容師像や美容師像が明確に持たせる。 ・福祉施設での貢献活動や地域との連携を教育活動に有効活用し、理美容業と社会生活に重要な態度と能力を身に付けさせる。 ○理容修得者課程（ダブルライセンス）の教育活動の充実 ・現行の教課目の現状分析を行い、発展的授業開発やその講師の確保、そしてそれらを具体的に広報する各種手段や充実を図る。	魅力ある学校を目指し、取組目標として掲げている内容が質問No1「理美容業界をリードする人材育成」であるが、生徒・保護者からは、90%以上の肯定的な回答を得ている。日頃から理容師美容師免許取得をゴールとせずに、その先の理容師美容師の仕事を通じて社会に貢献できる職業人の育成を目指している授業内容が評価されていると推察される。具体的には国家試験対策だけでなく現場で活躍されている現役の理美容師を講師として招聘してより実践的な技術を学習し、また社会福祉施設利用者をお客様として迎えた総合的な実習を通じて技術だけでなく接客の重要性や生徒の心の成長を促す教育を実践している。教員からの30%弱の満足していないとの回答は、さらに改善の手段があるとの気持ちの表れであると考えている。例えば、理容科と美容科の併設校である強みを最大限に生かす教育課程の工夫を令和7年度は取り組みたい。	B
	多様化する生徒への支援	・養護教諭とSC及びYSSW（ユーススクールソーシャルワーカー）の連携を確立し、研修等の機会なども活用し、生徒の相談への対応に職員で組織的に行う体制づくりを行う。 ・中学校卒業後すぐに入学する生徒への手厚い支援体制を構築する。	今年度の9月からSCの週1日の配置が始まり、様々な背景を持つ生徒の指導に大変生かされている。生徒とのカウンセリング後にはSCの専門的な知見を養護教諭・教員と共有がなされ生徒の特性の理解がより進んでいる。さらに月1回は、副校長・養護教諭・SC・YSSWとの情報共有の場を設け、連携体制を整え生徒への支援に生かしている。	B
人材育成の取組目標		・横浜市立唯一の理容師・美容師の養成校であるため、教職員の異動がほとんどないという環境である。伝統と課題の整理をさらに進め、活かされるべきと改善すべき具体策に意欲的に取り組む意識を育てる人材育成を進めていく。 ・教務主任、各科主任を中心とした計画的な指導者層の意識改革の育成を図り、若年層への適切な指導計画を進める。教育委員会の育成研修や理美容業界各団体・企業の研修の計画的な活用を行う。 ・長期的な事業計画に沿った採用計画への展望をもって進める。	少ない職員数で異動のない職場のため、合意形成までが早く修正も柔軟に対応できる職員同士の相互理解が進んでいることが強みであるが、その一方で人間関係が深いがゆえに改善点の指摘が足りなかったり、振り返りをすることなく安易に前例を踏襲してしまうマイナス面も見られる。教科指導の理容美容の技術指導だけでなく、授業力の向上や生徒指導、学級経営や多様な背景をもつ生徒への教育など教員としての資質・能力を高めるために自らが学び続けることが必要である。また学校運営に携わり、マネジメント力を持ったリーダーを育成することが急務である。若い教員を中心とした「将来構想検討委員会」での議論を活用し、意図的・計画的に人材育成を進めていきたい。	B
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	・学校教育目標と本校の歴史について確認した内容の改善を進めてきた。その上に立って「これからの理美容師の育成」のための職業観・別科の教育観をさらに理解しやすく表現する。	学校教育目標に関する保護者アンケートNo8と教職員No13双方で9割の肯定的な回答である。特に教員間では、ここ数年の受検者の減少を受けて今後の学校の方向性や育てる生徒像について議論を重ね、共通認識を持てている結果と推測する。引き続き、生徒に学校教育目標が理解され、実現されるよう授業だけでなく学校教育全般に職業観が浸透するよう努めたい。	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	・基本的な連携である報告・連絡・相談の徹底についての職員研修を行うとともに、学校経営方針の確かな共有による運営がなされるような啓発活動と自主的な研修会の運営を行う。	この数年、教職員は危機感を持ち学校の課題について検討を重ねてきていることにより、学校運営方針の共有も進んでいる。また令和6年度より定時退庁日を設定し、教職員自らにワークライフバランスを意識付けることを試みている。教員の研修機会が限られているので、教育委員会への働きかけや外部の研修を活用していきたい。	B
	教育課程	・理美容師養成に関する制度改正に対応した平成30年度からの教科課程と理容修得者課程について、教室（施設設備）教員配置・教育計画・時間割などの課題を改善していく。	・教育課程検討委員会を中心に、生徒に身に付けさせたい資質・能力を常に検討を重ね、教員全体での議論を通じて課題を共有した。今年度からは「実務実習」を2年次に増やす教育課程の改善を行い、就職活動に向けたキャリア形成や心構えを啓発することに繋がった。今後も年度末に振り返りを丁寧に行い、学校内外の状況を幅広く視野に入れながら社会に求められる資質・能力を教育課程において明確化できるように努める。	B
	教科指導	・各種実技競技会等に向けた身近な目標設定やきめ細やかな指導により、学生のモチベーションを高く保ち、高い技術力の習得を目指すことと、多様化する生徒の実態に応じた教科・技術指導の研究を行っていく。	・今年度は、理容美容学生技術大会の全国大会において理美容両科の生徒4名が全国大会に出場することができた。昨年同様、全国4位に入賞を果たしたことで一定の成果を挙げられ、下級生にも明確な目標設定を示すことができた。本校の教科指導の要でもある国家試験100%合格に向けて「指導の個別化」「学習の個性化」に対応できるよう生徒の学習歴を含めICT支援員と連携し、クロームブック等の機器を活用した指導方法の研修にも積極的に取り組むことができた。	B
	特別活動部活動	・生徒会活動に関しては、本校の特殊性を活かした生徒の主体的な活動を充実し、創造性やコミュニケーション能力向上を活かす活動を行う。また、部活動は、高い技術力の獲得を目標として校内外の活動を支援する。	この項目（生徒.保護者4）に関して、そう思う、ややそう思うの回答が合わせて全体の9割以上を得ている。特別活動、BB祭、市庁舎アトリウムでの技術発表会、部活動など、年度当初からの、生徒全員が会員であるということを周知する事で、前向きな姿勢が持っていると考えられる。職員においてはあまり実現できていないという回答が27%となっており、学校全体として具体的な役割などを設定し全体の士気を高め生徒にも引き続き丁寧に指導を行っていく。	B
	生徒指導教育相談（特別支援）	・全生徒に対して、個人面談を実施し、個々の生徒への理解を図るとともに、多様化する生徒の実態に合わせた相談・指導方法の研修を行う。教職員間での情報共有をSCの活用で組織的に対応する。	保護者が「そう思う・ややそう思う」が8割を超えている（保護者5）が、教職員は6割にとどまり（教職員7）指導が不十分なようである。モデル実習などで社会的マナーや公共心の向上を図っているが、目標点には届いていないようである。日頃から保護者・職員に傾聴し、改善策を話し合い、指導を行っていく。	B
	キャリア教育進路指導	・就職指導計画について生徒及び保護者に十分共有し、誰もが適切な就職、進学の実現に向けて応援団体との連携等を図る。 ・具体的なイメージや将来設計がもてるように、実務実習や実践授業をはじめとした進路指導・キャリア教育の充実を進める。	担任及び学年担当で就職活動を進めてきた。応援団体との連携を図りながら企業との就職説明会や外部から講師を招いて行う就職レクチャー、卒業生による就職ガイダンス、実践的に行う実務実習など充実した就職活動ができていると思う。生徒自身が求める店舗の選び方や就職の進め方など大変役に立っている。	B
	保健指導環境美化	・本校の特色である職業意識の上に立った環境整備、美化・衛生意識を、授業は勿論学校生活のあらゆる部分で生徒同士での啓発や意識の喚起が行えるように取り組む。	授業において、生徒たちは常に美化・衛生意識を高く持って環境整備に取り組むことができていたと感じる。しかし、学校生活においては、美化委員会を設置し、掃除備品の管理と日常的な環境整備を目標としたが、あまり達成できていなかったように思う。	B
	学校経理施設・設備情報の管理	・予算や旅費予算等、配当予算内の執行について、年度当初に全職員の理解の下で計画し、有用な構内整備にあたる。 ・準公金を扱う額が大きいので、透明性のある経理を行う。 ・個人情報管理等の知識理解について研修会を積極的に行う。	学校施設・設備の環境面や改修・修繕の整備については、特に生徒の90%以上が学校施設・設備が充実していると感じている。このことが続くように今年度は、技術員や事務職員からの講話を生徒全体会で取り入れ、生徒自身の公共物の使用マナーの向上や清掃活動の充実を促すことに取り組んだ。また学校経理については、教職員対象に複数回の準公金の取り扱いについての研修会を実施し、これまで以上に透明性を高めるとともに適正な執行を心掛ける。	B
	保護者・地域等との連携協力	・地域清掃等を通じた地域連携をさらに積極的に行う。 ・学校評価の活用で、保護者、地域の方々との連携協力がより円滑になるように進める。また、今後の進め方を綿密に検討する。	地域から学校にいただいた苦情や情報をもとに、生徒の登下校の交通マナーやごみについての指導・注意だけで終わらせることなく、非常時には学校やそこで生活する生徒・職員が地域の重要な一員となることを意識して、地域の課題を共有し、連携を進めていきたい。	C
	危機管理	・災害、緊急事態発生時の対応・連絡体制について校内マニュアルの確認を全職員で行う機会を一層増やす。災害時の避難やメール配信など緊急連絡体制と対応について常に見直し、確認していく。	今年度から防災訓練を生徒自身が自分の身を守ることそして安全に避難することに重点を置いた訓練に変更した。生徒アンケートNo12からは85%の肯定的な回答を得たが、保護者アンケートNo12では6割である。今後は、避難場所や経路を保護者とも共有できるよう学校ホームページの活用を進め、また自宅までの避難経路について家庭でも確認し合い、防災意識が高まるよう心掛けたい。	B
	学校に関する情報公開	・リニューアルした学校HP、市民への公開授業、広報会社との連携等さまざまな手段により本校の教育活動について、周知し理解を広める。 ・理美容業界、PTA、後援会、同窓会との情報共有に努める。	今年度はオープンキャンパスを横浜市庁舎アトリウムで行ったり、後援会の各サロンへオープンキャンパスの日程を周知し、利用者への宣伝を依頼したりするなど、三団体や業界関係者に向けての発信や連携に努めた。また、前年度成果のあったインスタグラムの投稿、放課後オープンキャンパスの運営を行い、新たな入学者獲得のために努めた。次年度はSNSやICTの活用についてもっと深めていきたい。	B
	いじめへの対応	・「いじめの定義」の正しい理解、横浜商業高校別科いじめ防止基本方針に則り、安心安全な学校を推進する。そのための保護者との連携、課題	いじめアンケートの実施において9割以上が取り組めているとなっている。昨年以上にアンケート実施後細かく聞き取り調査を行い（年2回）、対応した結果大事に至る前に対処できたと思う。いじめ防止会議などで月1回の全体での取り組みにより、多くの目で生徒の情報が集まり、未然防止に繋がっている。次年度以降も細かい対応、指導を心掛けて取り組んでいきたい。	A

学校関係者評価書提言	「理容美容業界をリードする人材育成」という取組目標の達成に向けて理容美容併設校という強みを生かしてさらなる指導方法の改善を望む。教育活動については多様化する生徒への指導の難しさがある中での職員の努力が見られ、理美容の大会でも成果がみられたので継続していただきたい。学校運営においては生徒指導のための教員の研修機会の確保、マネジメント力を持ったリーダーの育成のための計画的な人材育成が急務であると考えられる。また、生徒募集に関しては学校の魅力をアピールし受験生の増加につながるような取り組みと広報などの効果的なPRの構築が必要と感じる。いじめへの対応はいじめを未然に防ぐための取り組みを継続して行っていただきたい。という意見を頂いた。
学校関係者評価書提言に対する考え	ご指摘のように理容科美容科を併設する養成校の強みを生かすべく、規則の範囲内で各科の教員が相互に教え合ったり、生徒同士が科や学年の枠組みを超え、互いに教え合う協働的な学びにつながるような教育課程を編成し、実際に共有できる授業時間を時間割を工夫して確保する。また多様化する生徒への指導にはSCやSSWとの連携を図り、誰一人取り残すことなく生徒の目標実現に向けて支援を続けたい。そのためにも教職員が主体的に学び続ける文化を醸成できるよう学校全体で取り組みたい。また安定的に受検生を確保できるように後援会・同窓会とも連携し広く学校を周知できるよう努める。
中期取組目標振り返り	・新たに「将来構想検討委員会」を立ち上げ、若手教員を中心に学校の目指すべき方向性について議論を重ねることにより、取組目標にもある修得者課程（ダブルライセンス）を充実できる新課程の設置や指導方法の開発を進めることができた。 ・生徒が職業人としての認識を深め、自身の目指す理美容師像を明確にできるよう1年次2年次でのインターシップの実施や卒業生の就職体験談を聞く機会を設け、有効に活用できている。 ・今後は技術を身に着けるだけでなく、人間性も高められるよう普段の授業の中で理容師美容師として社会での役割を生徒自身が意識できるような指導を心掛ける。

取組分野		令和　7　年度		総括
		取組目標	自己評価	
重点取組項目	魅力ある高校教育の推進	○理美容業界をリードする人材の育成 ・「理容師免許・美容師免許」取得は目標の通過点であり、将来は国内外で理美容界のリーダーとして、活躍する為に豊富な授業時間数を活用し、基本的な技術及び知識を充分に身に付けさせる。 ○サロンでの実習体験、理美容界で活躍している卒業生の講話会を通して、自身の理容師像や美容師像が明確に持たせる。 ・福祉施設での貢献活動や地域との連携を教育活動に有効活用し、理美容業と社会生活に重要な態度と能力を身に付けさせる。 ○理容修得者課程（ダブルライセンス）の教育活動の充実 ・現行の教課目の現状分析を行い、発展的授業開発やその講師の確保、そしてそれらを具体的に広報する各種手段や充実を図る。	・常に、生徒・保護者・社会（理容美容業界）から必要とされ、支持される学校づくりを目指している。理容師・美容師国家試験に合格するだけでなく、さらに実際にその資格や能力を生かし、どのように社会に貢献できるかを意識した教育を大切にしている。質問No1の「理美容業界をリードする人材（職業人）の育成」については、生徒、保護者とも90%以上の肯定的な回答を得ていることは、「技術」の習得だけでなく、「人間力」を身に付けさせる教育内容が理解されているものと感じている。 ・本校の生徒は、卒業後はほぼ100%が就職することから、在学中から理容業・美容業が人と接する職業であることを認識させ、社会福祉施設利用者をお客様として迎える総合的な実習や理容美容サロンでの実務実習などの実践的な実習を通じて、相手（お客様）を尊重し、それらに対応できる知識と技能を習得できる機会をさらに増やしていきたい。	B
	多様化する生徒への支援	・養護教諭とSC及びYSSW（ユーススクールソーシャルワーカー）の連携を確立し、研修等の機会なども活用し、生徒の相談への対応に職員で組織的に行う体制づくりを行う。 ・中学校卒業後すぐに入学する生徒への手厚い支援体制を構築する。	・生徒の特性を理解する研修の実施やSCやSSWとの定期的な情報共有会議を通じて、全教職員の多様な生徒への指導方法や保護者対応に大きな変化が見られるようになった。特にいじめなどの事象に対する未然防止や早期発見につながる教職員の気付きが増えた。今後もすべての生徒が安心して学習活動が行える環境を整えていきたい。	B
人材育成の取組目標		・横浜市立唯一の理容師・美容師の養成校であるため、教職員の異動がほとんどないという環境である。伝統と課題の整理をさらに進め、活かされるべきと改善すべき具体策に意欲的に取り組む意識を育てる人材育成を進めていく。 ・教務主任、各科主任を中心とした計画的な指導者層の意識改革の育成を図り、若年層への適切な指導計画を進める。教育委員会の育成研修や理美容業界各団体・企業の研修の計画的な活用を行う。 ・長期的な事業計画に沿った採用計画への展望をもって進める。	・中長期的な計画のもと、意図的な人材育成を進めることで各分掌や委員会のリーダーが中心となって業務を行えるように変化した。 ・定年退職をむかえる教員の後任に適切な人材を採用できるよな採用計画を教育委員会とも連携していく。	B
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	・学校教育目標と本校の歴史について確認した内容の改善を進めてきた。その上に立って「これからの理美容師の育成」のための職業観・別科の教育観をさらに理解しやすく表現する。	・保護者No8、教員No13の教育目標に関するアンケートでは9割の肯定的な意見が寄せられていることは、特に教職員間での「将来構想検討委員会」を中心に活発な議論を進めてきた表れと評価している。学校の方向性を検討する中で求める生徒像や育てたい生徒像、スクールミッションが明確となり、教育活動全般を見直すきっかけとなっている。	B
	組織運営（働き方改革）教職員研修	・基本的な連携である報告・連絡・相談の徹底についての職員研修を行うとともに、学校経営方針の確かな共有による運営がなされるような啓発活動と自主的な研修会の運営を行う。	・異動がなく少人数である職場のメリットを最大限に組織運営に生かせるよう、教職員同士の日頃からの職員室での情報交換は課題共有や意思決定の速さに表れている。その一方で、責任の所在や担当が不明確な業務の整理を今後、分掌長会議を有効に活用して改善にしていきたい。 ・教職員の研修については、各科を中心に積極的に進めているので、研修を受けやすい環境づくりが必要である。教職員一人ひとりのキャリアステージに応じた研修の受講を勧奨し、長期休業中を有効に活用している。 ・業務の精選や効率化、定時退庁日の活用など働き方を意識する教職員が増えてきている。	B
	教育課程	・理美容師養成に関する制度改正に対応した平成30年度からの教科課程と理容修得者課程について、教室（施設設備）教員配置・教育計画・時間割などの課題を改善していく。	・教育課程検討委員会を中心に、生徒に身に付けさせたい資質・能力を常に検討を重ね、教員全体での議論を通じて課題を共有した。昨年度より2年次の夏季休業中に実務実習、理美容合同企業説明会（6月）、1年次就職セミナー（12月）等を通じて就職活動に向けたキャリア形成や心構えを啓発することに繋がった。今後も学校内外の状況を幅広く視野に入れながら社会に求められる資質・能力を明確化できるように努める。	B
	教科指導	・理美容師養成に関する制度改正に対応した平成30年度からの教科課程と理容修得者課程について、教室（施設設備）教員配置・教育計画・時間割などの課題を改善していく。	・国家試験100%合格に向けて「指導の個別化」「学習の個性化」に対応できるようICT支援員と連携し、一人1台端末等のICT機器を活用した指導方法の研修にも積極的に取り組むことができた。各学期末において特別時間割を多く組み、外部講師による授業や講演会を実施し、技術だけでなくこれからの社会生活に必要な知識と能力を身につけさせることができた。今後は、教育課程検討委員会と連携して選択課目を見直し、「実務実習」を増やし、職業観が浸透するよう努めていきたい。	B
	特別活動部活動	・生徒会活動に関しては、本校の特殊性を活かした生徒の主体的な活動を充実し、創造性やコミュニケーション能力向上を活かす活動を行う。また、部活動は、高い技術力の獲得を目標として校内外の活動を支援する。	全体として特別活動や行事への取り組みは概ね高く評価された。行事において生徒の参加意欲については、主体的に取り組む姿勢が定着してきている。コミュニケーション力も行事を通して学校全体として高めることができた。内容も含め今後は準備やサポートの工夫や質の向上に向けた改善を考えていきたい。部活動においては、時間を計画的に使い活動ができたので継続して努めていく。	B
	生徒指導教育相談（特別支援）	・全生徒に対して、個人面談を実施し、個々の生徒への理解を図るとともに、多様化する生徒の実態に合わせた相談・指導方法の研修を行う。教職員間での情報共有をSCの活用で組織的に対応する。	生徒・保護者の「そう思う・ややそう思う」の解答が8割を超えているが、学校生活においては目標点に届いていないように感じる。保護者の意見からも一部の生徒のマナー違反があると出ている。登下校を含めた学校生活、本校独自のモデル実習を通じ引き続き指導が必要である。また、日頃から生徒・保護者と職員との情報交換を行い、必要があればSCとの連携も積極的に行っていく。	B
	キャリア教育進路指導	・就職指導計画について生徒及び保護者に十分共有し、誰もが適切な就職、進学の実現に向けて応援団体との連携等を図る。 ・具体的なイメージや将来設計がもてるように、実務実習や実践授業をはじめとした進路指導・キャリア教育の充実を進める。	キャリア計画に基づき実施した就職フェアや就職ガイダンスへの参加や就職レクチャーや実務実習授業を活用し、生徒一人ひとりが社会的・職業的に自立できるよう、必要な能力や態度を育み、多様化する就職活動の支援に務めた。	B
	保健指導環境美化	・本校の特色である職業意識の上に立った環境整備、美化・衛生意識を、授業は勿論学校生活のあらゆる部分で生徒同士での啓発や意識の喚起が行えるように取り組む。	教科内においては、衛生観念に基づいた環境整備や美化活動が積極的に行われていると感じる。しかし、通常清掃においてはまだ主体的に取り組めているとは言えず、指導方法を考えていかなければならないと感じる。	B
	学校経理施設・設備情報の管理	・予算や旅費予算等、配当予算内の執行について、年度当初に全職員の理解の下で計画し、有用な構内整備にあたる。 ・準公金を扱う額が大きいので、透明性のある経理を行う。 ・個人情報管理等の知識理解について研修会を積極的に行う。	・学校経理業務の負担を軽減するために、特に学校納入金の徴収方法の変更を検討した。また教職員の準公金の取り扱いについて研修を重ね、徴収額の見直しや適正な執行を心掛ける。 ・個人の携帯端末の取り扱いなど、教職員への研修を通じて個人情報管理の意識が高まっている。	B
	保護者・地域等との連携協力	・地域清掃等を通じた地域連携をさらに積極的に行う。 ・学校評価の活用で、保護者、地域の方々との連携協力がより円滑になるように進める。また、今後の進め方を綿密に検討する。	・残念なことに生徒の登下校のマナーや喫煙に関する苦情が地域住民から寄せられている。その都度全体集会などで注意喚起を行っているが、理容師・美容師を志す職業人としての社会性を身に付けさせることつながる指導を継続していく。	B
	危機管理	・災害、緊急事態発生時の対応・連絡体制について校内マニュアルの確認を全職員で行う機会を一層増やす。災害時の避難やメール配信など緊急連絡体制と対応について常に見直し、確認していく。	・今年度も実践的な避難訓練を実施し、生徒の防災意識は向上していると考えている。教職員についても様々な状況を想定した避難訓練を通じて、日頃から自身の災害時、緊急時の動き方を確認している。 ・一方で保護者、生徒のアンケートでは避難経路等を把握していない者が20%いるので、「すぐーる」などを活用した学校からの正確な情報発信や共有を進めていきたい。	B
	学校に関する情報公開	・リニューアルした学校HP、市民への公開授業、広報会社との連携等さまざまな手段により本校の教育活動について、周知し理解を広める。 ・理美容業界、PTA、後援会、同窓会との情報共有に努める。	今年度はオープンキャンパスの回数を増やし内容の充実に努めたことで、来場者を昨年より30%増やすことができた。また、インスタグラムの投稿に力を入れ、本校の教育活動について幅広い層に周知と理解を広めることができたように感じる。次年度は、後援会や同窓会、業界関係者など、外部団体と連携した企画を考えてみたい。	B
	いじめへの対応	・「いじめの定義」の正しい理解、横浜商業高校別科いじめ防止基本方針に則り、安心安全な学校を推進する。そのための保護者との連携、課題	いじめ解決のためのアンケートの面談・聞き取り調査を丁寧に対応できている。また、朝の打ち合わせや職員会議・いじめ防止対策委員会を全職員で行っているので、生徒の状況や情報共有が速く、各科・各学年を中心に指導にあたることが可能となっている。次年度以降も細かい対応や指導を心がけ、未然防止に取り組んでいきたい。	A

学校関係者評価書提言	「理美容業界をリードする人材の育成」について、ますます質の高い教育と質の高い生徒を育成できるよう継続を望む。教育活動において職員の意欲と入学後も変わらぬ指導で生徒に向けた現場での指導と対応の難しさを感じたという意見を頂いた。理美容師では清掃衛生においては、安心や安全に授業ができる環境をつくるために必要であるが、まだ自主的、主体的にできる生徒が十分とは言えない部分も見受けられることから、学校としての課題を明確にし、計画的な改善に取り組んでいき、生徒の登下校のマナー、衛生面において適切な指導や取り組みが必要と考えられる。近年の生徒の多様化に伴い、生徒指導の難しさが増している中で、職員1人の仕事量が多いと見られたが、平準化が見られ改善されているように感じるという意見を頂いた。生徒指導に関する研修機会の確保や、学校運営を担うリーダーの計画的な育成など、組織としての対応力を一層高めていただきたいと提言を頂いた。
学校関係者評価書提言に対する考え	ご指摘いただいたように、地域社会や業界のリーダーとなる職業人の育成を目指し、理容美容の技術指導だけでなく人間性や社会性を高められる教育活動を進めていきたい。理容師美容師の職業は、単にお客様の容姿を整えるだけでなく衛生や健康、安全や安心を提供し、もつて公衆衛生の向上に資することを目的にしていることから、職業としての視点をもって学校での清掃指導や保健美化活動を進めていく。 また、生徒の多様性を包摂し柔軟で多様な学びが展開できる環境が整えられるよう、教職員への特別支援教育の高い専門性を身に付ける研修や生徒支援に関する研修機会を設け、さらにSCやYSSWとも課題を連携・共有し、チーム学校で取り組んでいきたい。
中期取組目標振り返り	・重点取組みである「業界をリードする人材の育成」については、希望する生徒の就職率は100%であり、就職先からも一定の評価を得ている。その一方で、就職店舗への定着率や生徒の満足度などを今後検証をしていきたい。 ・多様化する生徒やいじめへの学校としての対応は、アンテナを高く持ち早期に生徒情報を報告して共有を図ることが徹底されており、対応も含め一定の成果をあげている。 ・地域との連携では地域清掃等の活動は学校単独で行っているが、地域住民との関わりや行事への参加などはできていない。近隣の他校種との交流の機会を設けるなどして、改善に努めたい。